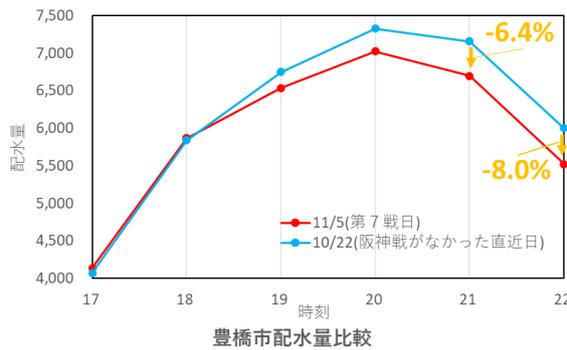


イベント放映時等における水使用量の変動について

(阪神タイガースが38年ぶりの日本一を決めた日本シリーズ第7戦による配水量への影響)

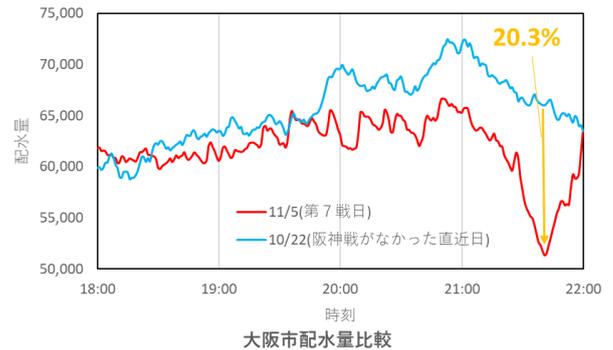
水道事業において、気象や社会情勢、イベント放映時等により配水量などは大きく影響され、制御・運転方法に関わってくる。11月5日阪神タイガースが日本一を決めた日本シリーズ第7戦（以降第7戦）において大阪市では、試合中の配水量が通常より大きく減少した。そこで今回、配水量の変化を豊橋市と大阪市で比較・分析し、今後の運転管理の参考とするため考察した。

○豊橋市と大阪市の配水量比較



豊橋市時間帯別配水増減率表

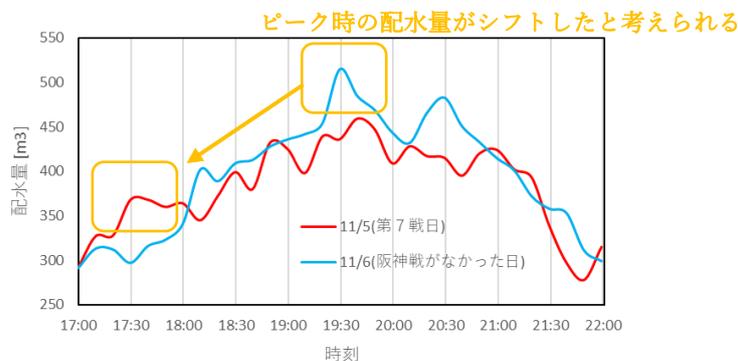
17時	18時	19時	20時	21時	22時
1.67%	0.46%	-3.14%	-4.11%	-6.44%	-7.97%



大阪市時間帯別配水増減率表

18時00分	20時05分	21時07分	21時41分	21時44分
3.17%	-11%	-11%	-22.2%	-20.3%

○豊橋市のピーク時間比較



【参考】配水量トレンドグラフによる配水量ピーク時間変化の様子

○データ分析と考察

第7戦が行われた日、豊橋市では試合時間の19時～22時は大阪市ほどではないが配水量が減少していた。また11月5日については、ピーク時の配水量が他の日と比べ若干シフトしている傾向がトレンドグラフより見て取れた。これは試合前に風呂やトイレ等を済ませたからではないかと推測できる。さらに、第7戦で阪神の優勝が決まる21時台は大阪市が約20%減に対し、豊橋市は約7%減であることから、テレビに釘付けになっていた阪神ファンは大阪市より少なく、豊橋市の配水量への影響は小さかったと考えられる。